

普連土学園校友会報

第 **101** 号

2019年2月15日

発行：普連土学園校友会

住所：〒108-0073 東京都港区三田 4-14-16

E-mail：friends@f-koyukai.com

責任者：富山恵子

T E L：03-3451-7700

F A X：03-3451-1959

普連土と奉仕

普連土学園副校長
原田 美代子

目次

クリスマス礼拝
バザー報告
活躍する校友生
円城寺先生追悼
校友会つてなに？
校友がどう事業委員会
成人を祝う会

普連土では、「礼拝・奉仕・国際理解・勉強」の四つを教育理念として掲げていますが、その中で私が一番深い感銘を受けているのが奉仕です。

私が学んだ地方の公立では普連土のような奉仕カリキュラムがありませんでした。中3時に生徒会として福祉施設に募金を届けに行ったりと、高1時に老人ホームへ級友と二人で慰問に行ったことが記憶の全てです。

そのような私が、普連土に入職して最初に体験させていただいた奉仕は、授業参観日の振替休日に、大塚福祉作業所へ生徒15名を引率して行う製本のお手伝いでした。利用者50名位の方々に混じって、表紙や帯を



つけて本を完成させる作業です。利用者の方々は障碍があるため手際よく作業を行うのは難しいのですが、真剣に、丁寧に、そして誇りをもって取り組んでいらっしゃいました。

一日の作業を終えたミーティングで、スタッフの方から「今日一日お疲れ様でした。普連土の生徒さんにお手伝いしてもらえたので、作業がはかどりました。どうもありがとうございます。ありがとうございました。」とお声がかかると、利用者の方々も口々に、「ありがとうございます」とおっしゃってくださいました。普段の生活でこのように人に喜んでいたかどうかはなかなかありません。お礼を述べなければならぬのは、私たちの方です。生徒も私も「ありがとう」の言葉が本当に嬉しく、温かく受け入れていただき、一日、一緒に作業をさせていただいたことに「こちらこそありがとうございました。ございました」と心より感謝しました。

そして、駅までの帰り道、生徒の中の一人が、「体が不自由な方々が

一生懸命作業に取り組んでいるお姿に接して、今まで自分は大切なことを見過ごしていた気がする」とほつりと言いました。奉仕をさせていただいたからこそその気付きでした。

普連土では校友生になった方々も「奉仕部」を中心に、献金やバザーで被災地や福祉作業所の品物を販売する等、尊い活動を続けていらっしゃいます。以前、ミス・ローズの秘書として献身的なお働きをされた48回生の菊地勝子さんから、「父に、普連土に入学して奉仕を学んで来いと言われた」と、お話を伺ったことがあります。普連土の奉仕の精神を大切に引き継ぎ、生徒が、奉仕先での出会いや交流、貴重な体験を通して、ダイバーシティを受け入れ、豊かな心を育んで成長するよう、奉仕に引き続き力を注ぎたいと思います。



喜多見福祉作業所にて

神さまは私たちへの愛を表すために、最高の贈り物として独り子イエスさまを与えてくださいました。しかし、その誕生は神の子にふさわしい神殿でも宮殿でなく、人口調査のためにごった返す、ベツレヘムの粗

校友会クリスマス礼拝

12月8日(土)

羊飼いの喜び

ルカによる福音書2章8~20節

日本基督教団深川教会牧師

長尾 邦弘

末な家畜小屋でした。
このできごとは町をにぎわす人々には知らされず、野宿をして夜通し羊の番をしていた羊飼いたちに天使によって伝えられました。彼らは休むこともなく羊の世話をします。

その貧しい生活は町の人々からは軽蔑され、安息日を守らない罪人とされていきました。

しかしその彼らにこそ、神の子の誕生は知らされました。あなた方のための救い主が生まれたという喜びの知らせです。彼らをその嘆き悲しみから救い出すために神は大切な独り子をお与えになったというので



羊飼いたちは天使が告げたとおりに御子を探し当て、大いに喜び、心から幼子イエスさまを礼拝しました。悲しみは感謝と喜びに代わりました。

ところで聖書にはもう一つの羊飼いの喜びについて記されています。それはイエスさまが話された有名なたとえ話です。百匹の群れの中の一匹の羊が迷いいでいなくなると、羊飼いは九十九匹を残して探しに行き、ついに見つけ、喜んでお祝いをする

というものです。

イエス誕生の話では羊飼いがイエスさまを探し出しましたが、このたとえは、いわばイエスさまが私たちを探し出してくださいさるという話です。そしてこの両方の記事は、どちらも神さまとの関係がイエスさまによって回復されるという点で一致します。

誕生物語において羊飼いたちは御子イエスとの出会いによって神の祝福を体験しました。見失われた羊のためには見出された一人のためには大きな喜びが天にあるといわれています。つまり一匹の見失われた羊が再び見つかることは、実は神の喜びでもあるということがわかります。

私たちがこのクリスマスにふたたび救い主イエス・キリストと出会い、神の愛を覚えることは私たち人間の喜びです。そして、そのことは実は神さまの喜びでもあるのです。神との関係の回復です。

クリスマスおめでとーございます!



心を込めて歌うハレルヤコーラス



礼拝をしてくださった長尾先生と副会長の松浦さんは同じ幼稚園に通った幼馴染です。その幼稚園のクリスマスページェントでマリアの夫ヨセフと天使の役で共演なさったか。60年前のセリフを未だに覚えているとおっしゃるのです是非再演をとお祈りしますと、完璧にヨセフと天使を演じました。一同大喜びで拍手でした。

日本舞踊を習っていた61回生の方は、当時の学園は稽古事に厳しく、稽古は良いが舞台に立つのは駄目、帰宅途中に稽古に行くのも駄目、厳しい目をおかわすのに知恵を絞ったそうです。その努力が実って名取になりました。

皆さん世代を越えて楽しく歓談しました。

コーラス部は難しい曲に挑戦し、皆様に素敵な歌をお届けしました。



司会をする松浦副会長

バザー

2018年11月10日

今年度のバザーは天気にも恵まれ多くのお客様が来場しました。160名の校友生も販売などのお手伝いをしてくださいました。

この日のために校友会では7月ごろからバザー委員会を開き準備に入ります。

バザー前日は献品、アクセサリ、委託など朝早くから学校に来て値付けなど最終準備を行います。午後には他のお手伝いの方も集まり注意事項などの説明を受け、生徒さんの終拜が終わるのを待ちます。

中学2年生が校友会室の横の階段に一列に並び、荷物の入った段ボール箱を指定された場所まで運んでくれます。掃除と机の配置を終えた教室では校友生が段ボールを開きどんどん並べていきます。バザー当日とは違ってお手伝いも50人弱、限られた時間で並べるのは大変な作業です。

来年は参加してみませんか？毎年校友会ではお手伝いを募集していま

す。午前だけ、午後だけのお手伝いでも大歓迎です。

校友会バザー委員長

82回生 寺山由美子



評判の手作りの品を求めて

アンケート

お手伝いをしてくださった方々に聞きました

◇何回目のお手伝いですか？

初めて：10名
2～10回：55名
11回以上：16名

◇またお手伝いをしたいですか？

手伝っても良い：55名
是非やりたい：21名

◇感想

- ・普連土で時間を過ごせて楽しかった
- ・先輩たちのパワフルさ、後輩たちの頼もしさに刺激を受けた

2018年度 バザー売上報告書

2018年12月15日
単位：円

摘要	売上	仕入	収益
アクセサリ	162,350	0	162,350
委託	1,303,688	934,683	369,005
献品	270,776	0	270,776
手芸	462,815	19,408	443,407
合計	2,199,629	954,091	1,245,538

奉仕部

単位：円

社会福祉法人かがやき会就労センター街（クッキー）	20,000
特定非営利活動法人STORY（石鹸2種類）	8,250
社会福祉法人 東京都知的障害者育成会大田区立くすのき園（刺繍雑巾）	3,000
いきいき福祉ネットワークセンター（ビスコッティ・マフィン）	15,000
合計	46,250



校章入りグッズ紹介

毎年バザーでは校章入りの商品が人気。一部をご紹介します。特に菓子などは午前中に売り切れてしまうものもありますので、来年はぜひお早めにご来場ください！ ※参考価格です



バスケース
1000円



タオル
400円



フレンどら
800円



チョコレート
600円



クッキー
1300円

社会的ハンデイを

もつ人と生きる

83回生 脇田久美子

「社会的弱者」とはなんでしょか？本来誰もが弱者ではなく、必要な支援を受ければ弱者ではなくなります。なぜ今私がホームレスだった、また障害のある人たちを支援しているのかお話しします。

24才で長男を出産しましたが、徐々に発達に遅れがあることに気がつきました。小学校に入学すると遅れは顕著になり、大学病院で検査を受けました。医師に「お子さんは知的障害です。ただお母さん、お子さんのあるがままを認めてあげてください。お母さんがお子さんを認めないとこの子の成長はありませんよ。」と言われました。障害の有無にかかわらず、この子のすべてを受容しなさいと言われたのです。ゆっくりでもいいからこの子なりの成長を見守ろう



創立 131 周年記念礼拝にて

と思えるようになりました。

しかし既存の学校教育では、その子に教育を受けることができません。障害児の親達は悩んでいました。親たちに呼びかけ会を作り、障害児の教育や生活環境の改善を求め教育委員会に働きかける活動をはじめました。その活動が目にとまり、横浜市議員に立候補しないと声をかけられ、障害児のお母さんたちの代弁をしようと決意、当選して37才から8年横浜市議員を続けました。

10年前に福祉の現場で働くことを決意しました。様々な福祉の現場を経て、今はホームレスやホームレス経験があり障害のある方の支援を行っています。

ホームレスには「なまけもの」とレッテルが貼られます。やりたくてホームレスをしている人はかわつた中には一人もいません。それなりの事情があつてそうなつてしまったのです。

ある方の事例です。刑務所を身元引受人がなく出所、野宿生活をしていた時に声をかけました。軽度の知的障害で、家庭環境は劣悪で窃盗を繰り返しては捕まっています。

する
……
反生



利用者の皆さんと油壺へ旅行

施設入所後は夜眠れずいらいる、シンナーが原因で幻聴があり苦しみました。訴えに耳を傾け、心身の健康回復に尽力しました。

かわつた人のほとんどが、良質な家庭環境で育っていないため、自己肯定感が非常に低く、自分の行動に自信が持てずにいます。必要な時期に周囲の励ましや時には怒られることも含めて愛情をかけられて育つことが健全な成長につながるということを感じます。今一人一人の個性に寄り添い、自分の言動に自信を持って生きていくことが出来るよう支援をする日々です。

円城寺吉政先生の思い出



昨年8月19日、1969年から1993年まで、24年間教鞭をとられた円城寺先生が93歳でご逝去されました。

沢山の校友生からお寄せいただいた先生の思い出の一部を紹介します。

◆色白の穏やかでいつもニコニコ笑顔の先生。ちよつと尾木ママ風でした。(81回生)

◆男子校から来られた先生。「女子校ならどんなに生徒たちが優しくして大人しいか？」と思つたのに、とんだ思い違いだった」と仰っていました。(82回生)

◆語尾に「ね」を付けるクセがあり、一度、授業中に何回「ね」と仰るか友達と数えました！(95回生)

◆シャカシャカした話し方で特徴あるお声でした。一生懸命生徒たちにお話しされていました。(95回生)

◆新渡戸稲造似というのは定番のネタで、修学旅行で新渡戸稲造の銅像と先生の写真をこっそり撮りました。(100回生)

山形での暮し

65 回生 岩崎久美子

山形県朝日町の高田地区という小さな集落での暮しも間もなく18年目に入ります。戸数14戸、人口34人のこの地区は町の中でも最も小さい集落の一つです。

ここに来てから私は専ら野菜作りに専念して来ました。200坪からスタートした畑は年毎に増えて700坪を超え、作物の種類も150種以上になり土地の人からは「何だやあ、農業試験場みてえだな」などと言われたものです。週に一度は町の「夕



思わず「任んでみたいなあ」って思うそんな「住まい」がここにはある

朝日町の移住募集パンフレットに載った岩崎ご夫妻ご主人の設計した建物を背景に



岩崎邸を訪ねた校友会生

活躍
……
校友

市」の仲間に加わって収穫物の販売を楽しみ、町外の様々なイベントには軽トラに野菜コンテナを積込んで出掛けたりもしました。

畑での作業は飽きる事もなく夢中で過して来ましたがさすがに70歳で一、二年過ぎた頃から体力が続かなくなり畑を少しずつ減らして今では始めた頃の200坪に戻りました。

来年には夫が85歳、私は80歳になります。すっかり馴染んだこの土地を離れたくない思いもありますが、そろそろ東京に戻ることを考えなければならぬ時期にきているようです。



校友会報は年2回出版委員会が作成しています。100号を機に幹事会でアンケートを実施しました。

会報をどの程度読んでいるか、どんな記事に興味があるか、特集ページ・新しい題字はどうかなど。

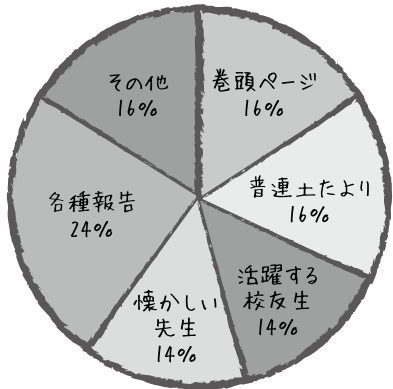
回答くださった幹事は50回生代120回生代までさまざま。最も多かったのは60〜80回生代でした。

◆アンケート結果

みなさん熱心に読んでくださっていることが分かりました。その中で特に興味のある記事は円グラフのとおり。早速今号はお二人の活躍する校友生を掲載しました。次号以降に懐かしい先生もご紹介します！

特集ページ・題字も概ね好評でした。

◆みなさんからの感想
カラー特別号の100号には多くのご意見・ご感想を頂きました。お褒め、労いの言葉、感謝致します。



興味のある記事 アンケート結果

カラー印刷については迫力があふ、新鮮だ、楽しかったなど。特集ページについては昔の写真が懐しかった、学生時代を思い出したなど。文字が見づらい、小さすぎる、文字ばかりで読む気がおきないといった厳しい指摘もありました。限られた紙面と費用の中で、これからも努力して参ります。

◆大募集中!!

ご意見・ご質問などいつでもお送りください。文章を書いてみたい方、学園に関するイラストもお待ちしております。[校友会出版委員会]宛に是非!

※本欄、試験的に字体を変えています。読みやすさいかがでしょうか?

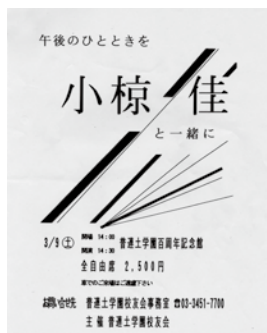
ありがとう 事業委員会



事 業委員会は、ミス・ローズの
お考えで「校友生の生涯教育
と交流、また収益を伴うものは母校
への寄付とする」ことを目的とし
1990年に5名で発足しました。

発足時に比べて女性が一人で音楽
会や旅行に出かけることが難しくな
くなり、また委員が介護などで続け
ることが難しく、また引き継ぐ人材
もいないため、2018年度をもつ
て休会することになりました。

こ れまでの事業活動として、ク
エーカー関連の勉強会を15
回、天満敦子さんや川島成道さん、
レジェンドさんなど著名な方のコン
サートを15回、バス旅行11回、その
ほか講演会、映画会などを行ってき



大盛況だった小椋佳コンサート



モンゴル勉強会での馬頭琴の演奏

ました。1996年の小椋佳さんの
コンサートでは785名が参加し講
堂(現新渡戸稲造ホール)が満杯とな
りました。また恒例の校友会主催のク
リスマス礼拝は、1995年に当時の
青山学院院長 深町正信先生をお迎
えして事業委員会主催で行ったのが始
まりでした。ほかにも、校友生のお
子さんで難病を抱えた方の支援を
行ったり、校章入りグッズの開発や
池田先生の追悼礼拝のお手伝いをし
たりと、幅広く活動してきました。

最 後の事業活動は2月23日
(土) 落語の会です。みなさ
ま是非ご参加ください。詳細は8頁
をご覧ください。

最後のバスツアー



10月4日(木)箱根への
バスツアーに30名の校友
生が参加しました。
◆今回のバスツアーで良
かった所

- ◆アンケート結果
- 第一位 箱根湿生花園
- 第二位 ポーラ美術館
- 第三位 箱根神社
- ◆初参加の方の感想

楽しかったです！初め
てお会いする方々ばかり
でしたが、どこか懐かし
さを感じました。道中、バスの中は
ゆったりした和やかな雰囲気です
た。なかなか行く機会のないポーラ
美術館に行けたのもよかったです。
印象派の所蔵が多く見ごたえがあり
ました。

ランチの時は83回生の方と同じ
テーブルにな
り、共通の恩
師小池先生の
話題で盛り上
がり、一気に
距離が縮まり
ました。今回
が最後と聞き
とても残念で
す。(94回生)



ポーラ美術館の前で集合写真



委員からのメッセージ



レジェンドと事業委員

◆貴女が委員長！
大先輩に厳命され
てから28年：素敵
な仲間と忙しくも
充実した日々！校
友生皆様のご支援
に心からお礼を申
上げます。何時の
日か、事業委員会
再開を願ってやみ
ません。(木村)

◆正に「チーム木村」！映画にコン
サート、素敵な旅先、常にイベン
トの「種」を探すアンテナを張り…皆
様の「有難う楽しかったわ」のお言
葉を励みに20数年。振返れば楽し
かったです！(大村・川村)

◆親の介護生活中、楽しい事業委員
会は希望の光でした。(末広)

◆交わりと学びの日々でした。(藤澤)

◆知識のオアシス、文化の発信部だ
と思っただ！(鹿内)

◆楽しい思い出がいっぱい！(勝)

◆ハーモニーの取れた素晴らしいメ
ンバーでした。(寺山)

◆貴重な体験をさせて貰いました！
(高井)

普連土たより

学校近況

百七十二信

学園は今年度も皆様のご協力をもちまして順調に運営されております。

今年度も例年の通り、校友生による礼拝では11月6日に演劇の道に進まれた113回生の正宗史子さんに、自らの挫折も含めて真摯な歩みを率直にお話し頂き、また同月27日にはロボットの研究・開発にかかわる98回生石川牧子さんに、先進技術を解説しつつ、自ら考え、意思を持つ人間がAIに取って代わられることはなく、また考えて決定できる人となるために普連土学園の教育が重要な役割を果たしていることを自らの学園生活に基づき、お話し頂きました。

また、10月1日の創立記念礼拝では、83回生脇田久美子さんに、学園在学時のお話しながら、ご家庭、さらに様々な分野でご奉仕を続けられた経験からの深いお話をうかがいました。

いずれも在校生には学園での自らをふりかえり、これからの生き方を考え、また社会の様々な側面を知る貴重な経験となりました。

今年度から、学習で課されたさまざまな課題を提出しなかつた生徒を、放課後残して課題を行わせて提

出させる「スタディ・ルーム」の制度を実施しております。その生徒監督を92回生1名、94回生2名、112回生1名の校友生が担当して下さっています。後輩の学習習慣の確立のために、監督のみならず出席データのとりまとめ、教員との連絡など、監督間でも綿密に連絡をとり期待以上の働きをして下さっています。学園の教育を元に、様々な場面で生き生きとした校友生の皆様の姿を拝見することは、生徒に貴重な経験となっております。

11月12日から17日まで、ネイティブ・スピーカー教員が中心となってインターナショナル・ウィークが開催されました。学園の教育の柱の一つである国際教育の推進のため、さまざまな国の方との朝のスカイプを通じての会話、毎日違うゲストを招いて英語を話しながらのイングリッシュ・ランチ、放課後もアイルランド名物のスコーン作りを始め、毎日様々な英語のイベントが催され、学園中各国のクイズやアンケートが掲載された色とりどりのポスターが掲示され、と、学校をあげて国際色に一つつまれた一週間でした。

(浜野能男先生記)

124^{回生}を祝う会

1月14日、品川プリンスホテルにて、成人を祝う会が開かれました。今年から112名の卒業生が集い、在学当時



から「人懐っこい学年」とも言われていた124回生らしい、温かい雰囲気気の同窓会となりました。それぞれの進路に進んだ友人やお世話になった先生方との再会に、高校時代に戻ったような懐かしさを覚えました。この学園で紡いだ縁を、これからも一層大切にしていきたいと思います。

(西村佳奈絵)

八十歳になりました

傘寿を迎えられた63回生の皆様に浦口先生が描かれた絵葉書セットをお祝いにお贈りしました。何人かの方々から昔を懐かしむお便りを頂きました。お礼の一節をご紹介します。▲傘寿祝いのお言葉と美しいカードを頂きまして誠に有難うございました。お蔭様でつつがなく過ごしております。生活の中で楽しみであるバレエのレッスンへ30年間通っておりまだまだ気持ちは衰えておらず、楽しみたいと存じます。

▲在学中、園芸部に所属しております。浦口先生の常に真摯でいられたことを思い尊敬の思いが還って参りました。一枚一枚嬉しく見せていただきました。

▲思いがけないプレゼント有難うございます。私もお花が好きで庭一杯咲かせております。夕方白いジンジャーの良い香りが漂っております。

◆お便りをくださった方々(敬称略)

- 秋山容子 鵜飼眞子 大川壽子
- 鈴木良子 高橋利子 手塚久枝
- 福田恵利 松岡和子

校友会だより

◆校友会総会のお知らせ

2019年度の校友会総会を左記の要領で開催します。

日時 6月8日(土) 11時～
会場 新渡戸稲造ホール／
ローズホール

第一部は礼拝と校長先生の学校報告の後、事務会を行います。事務会の主な議題は2018年度の年次報告と決算、2019年度の年次計画と予算案です。事務会後の催し物は普通土学園聖歌隊の演奏です。
第二部はローズホールで昼食をいただきます。

◆ホームカミングのお知らせ

左記のように開催します。

対象回生 99・104・109回生
開催日 3月2日(土)
13時～16時

会場 ローズホール

楽しい企画が満載です。多数のご参加をお待ちしています。

◆事業委員会よりお知らせ

落語の会(ふれんど寄席)

普通土学園での初の落語会。皆様で笑い、益々元気に！

日時 2月23日(土)

13時開場／13時30分開演

会場 第1会議室

演者 春風亭昇吉さん(39歳)

師匠は春風亭昇太さん。東大卒で気象予報士の資格もある異色の落語家。アフリカに太陽光ランプを届ける活動も。

※入場無料・事前申込不要

◆後援会よりお知らせ

ミス・ローズに関する講演会を開きます。校友会の方もどうぞご参加ください。

日時 3月16日(土) 10時30分

会場 ローズホール

講師 大津光男財務理事

演題 「エスター・B・ローズと普通土学園」

ミス・ローズの音声や写真を紹介

予定

◆北海道胆振東部地震のお見舞い

校友会より北海道在住の校友会27名にお見舞いのお手紙と校章入りタオルをお送りしました。幸い深刻な被害を受けた方はいらっしゃらなかったようです。皆様からは感謝のお便りが届いております。旦那様から「良い学校だね」と言われたなど。

◆校友会事務所からのお願い

住所、氏名など変更された方はEメール・FAX・電話・葉書等で速やかに校友会事務所までご連絡ください。

◆2018年度分校友会運営費

本年度のお支払いがまだの方は郵便局で左記の口座にお振込ください。

口座記号 00110・8
口座番号 87932(右詰め)

加入者名 普通土学園校友会

金額 2500円

通信欄に必ず回生・お名前・ご住所をお書き添えください。

.....

スマートフォンやタブレット端末からQRコードを読み取ると校友会ホームページに繋がります。



■ 訃 報 ■

謹んでお知らせ申し上げます。心より哀悼の意を表します。

旧職員 円城寺吉政	18・8・19
42 孝井 明子(田子)	18・5・1
44 白熊 和子(山下)	18・5・22
44 蓑島 好(蓑島)	18・6・18
46 國分トヨ子(安藤)	18・3・30
48 岡田 春子(岩崎)	17・9・25
49 原島三重子(三谷)	18・8・4
50 泉 恵江(倉本)	17・9・21
50 栗山智恵子	18・6・26
50 中川 治子(豊田)	18・7・30
51 武本 照子(直川)	18・8・7
52 A丸井みどり(海部)	18・1・15
53 丹羽瑠璃子(瀬田)	17・9・15
58 小摩木良栄(澤田)	18・9・29
62 西ヶ谷睦子(鈴木)	17・7・4
85 高橋みどり	18・1

編集後記

出版委員会の中心としてご活躍くださった千田孝子さん(53回生)、鈴木郁子さん(66回生)長い間ありがとうございました。お二人を欠き心細い中、試行錯誤を重ね今号を編集しました。これからも魅力ある会報となるように努めてまいります。
(入江・森本・村田・渡邊・白井)

このページの内容についてのお問い合わせは、校友会事務局(03-3451-7700)まで。